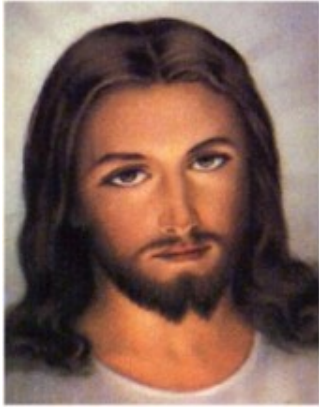




神のいつくしみの主日 2013



復活祭の次の週の今日、私たちは神のいつくしみの主日をお祝いします。この主日は現代の私たちへの神からの大いなる贈り物であり、私たちひとり一人にとっても、必ず貴重で大切なものとなるものです。

カトリックの信仰において、私たちはイエスのいろいろな姿を思い描きます。例えば、十字架につけられているイエス、羊の番をする善き羊飼いととしてのイエス、そして幼子のイエスもそうです。

イエスはシスター・ファウステイナに神のいつくしみとして現れました。その結果、シスターはイエスの偉大なメッセージを世に告げ知らせることとなったのです。

1931年2月22日、御心から光線を放ちながら、イエスはシスター・ファウステイナに現れ、そして言われました。あなたが見ているままの形を像に描き、「イエスよ、あなたに信頼します」と添えなさい。この像が、まずはあなたの教会で敬われ、そして世界中で敬われることを私は願っている。

私は約束する、この像を敬う魂は朽ち果てることがないと。私は約束する、たとえ死を迎えるときであっても、栄光は、敵対するものに勝り、すでにこの地上にあると。私はこれを自身の栄光として守りぬく。

神のいつくしみの泉に御恵みを求めて次々とやってくる人々のために、私は道具を用意している。それは、「イエスよ、あなたに信頼します」とするしがついた、この像のことである。



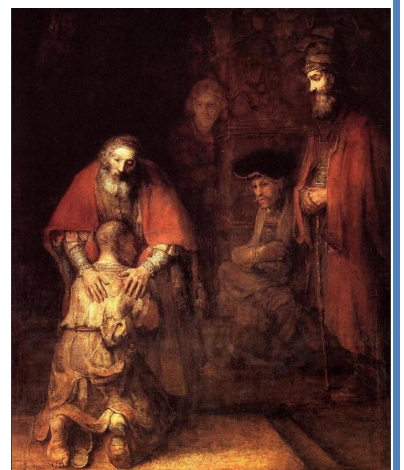
私は約束する、この像を敬う魂は朽ち果てることはない。私は約束する、たとえ死を迎えるときであっても、栄光は、敵対するものに勝り、すでにこの地上にある。私はこれを自身の栄光として守りぬく。

神のいつくしみの泉に御恵みを求めて次々とやってくる人々のために、私は道具を用意している。それは、「イエスよ、あなたに信頼します」とするしがついた、この像のことである。

2本の光線は血と水を表している。青色の光は、魂を正義に向かわせる水を表し、赤い光は、魂の命である血を表している。この2本の光は、十字架上で苦しみに満ちた私の心が槍で開かれたとき、みなを思う私の深い慈悲の思いから放たれた。この2本の光は盾となって、魂を私の父の怒りから守る。この逃げ場に住まう者は幸いである。神の正義の手はその者を捕えてはおかないであろう。

この像の本質は、十字架の上で刺し貫かれたキリストの御心からあふれ出る憐み深い御恵みの泉であり、また教会の秘跡全体の象徴である洗礼とご聖体を、誰の目にも見える秘跡の恵みとして表すために、視覚的にあふれ出ている御恵みの泉なのです。

2000年4月30日日曜日、教皇ヨハネ・パウロ2世は、シスター・マリア・ファウステイナの列聖式のミサの中での説教でこう語りました。2000年、この神のいつくしみの祝日を制定したのがヨハネ・パウロ2世です。そして、2005年、ヨハネ・パウロ2世はこの主日の前夜祭に亡くなったのです。



ヨハネ・パウロ2世は言われます。

この先の年月は私たちに何をもたらすのでしょうか。人の未来とは一体どんなものなのでしょうか。私たちに知らされることはありません。しかしながら、ものごとが新しく進歩しても、残念ながら、苦痛を伴う経験には事欠かないことは確かです。それでも、神のいつくしみの光は、シスター・ファウステイナの非凡な力を通して、主がどうにか世に戻そうと願われたもので、私たちが生きる21世紀に、男であれ女であれ、すべての道を照らしてくれるものなのです。

しかし、使徒たちがかつてそうしたように、私たち現代人も、十字架上での傷を見せ、「あなたがたに平和があるように」と繰り返し言われた復活のイエスを、身近なところに招き入れなければなりません。

私たち人類は、復活されたキリストによってもたらされた聖霊に、私たち自身が触れられ、満たされなければなりません。御心の傷を癒すのは聖霊であり、神から私たちを引き離し、私たちをばらばらにしている壁を取り壊してくれるのも聖霊です。また同時に、御父の愛への喜び、そして兄弟がひとつになる喜びを取り戻してくれるのも聖霊なのです。



自己を真の贈り物として捧げるほどの深い愛をもって愛するというのは、簡単なことではありません。この愛は、神の愛の神秘を深く理解することでのみ、身につけることができます。主を見つめ、父の心と一体となることで、私たちは兄弟姉妹を新しい目をもって見ることができるのです。利己的でなく連帯感を持ち、思いやりのある寛容な態度で、兄弟姉妹を見ることができるようになるのです。これすべてがいつくしみなのです。

人のなぐさめとなるこのメッセージは、とりわけ、非常に過酷な試練に苦しんでいたたり、自ら犯した罪の重荷に押しつぶされ、人生においてすっかり自信をなくして絶望に屈しようとしている人々に発せられているのです。キリストの御心からの光線がこういう人々に触れ、その上に輝き、暖め、道を示して希望で満たすよう、キリストのやさしさが人々に手を差し伸べているのです。

この祈りによって、どれほど多くの魂がなぐさめられたことでしょう。イエスよ、あなたに信頼します。

イエスに身をゆだねるというこの簡単な行為が、厚く垂れこめる雲を払いのけ、すべての命に一筋の光を差し込ませるのです。

みなさん、

イエスは、私たちがイエスに従うよう、絶えず私たちを招いておられます。ですから、愛であり、いつくしみそのものであるキリストの聖なる意志につき従おうではありませんか。

ラファエル植田勝行

